

Quarterly Journal of Seismology

Vol. 40

報 時 震 驗

第 40 卷

昭 和 50 年

氣 象 庁

Published by the Japan Meteorological Agency

Tokyo

1975

第40巻 総目次

第1号

正務 章, 荒川義則: 近地地震観測所としての
松代の潜在検知能と効率について 1

涌井仙一郎: 小笠原諸島付近の表面波と地殻構造について 9

吉留道哉: 桜島爆発地震の統計的調査 19

第2~3号

山岸 登: 松代における常時微動 33

市川政治: P 波速度異常が震源決定に及ぼす影響と P 波異常域の検知について 43

福岡管区気象台: 1975 (昭和50) 年1月22日—23日

熊本県北東部の地震の調査報告 55

気象庁地震課, 仙台管区気象台, 秋田地方気象台, 盛岡地方気象台:

秋田駒ヶ岳の噴火終息後の表面現象

(1971年10月~1975年2月) 73

第4号

福岡管区気象台: 1975 (昭和50) 年4月21日大分県中部地震の調査報告 81

長宗留男, 中礼正明: 1975 (昭和50) 年6月10日の

北海道東方沖の地震の大きさと津波の規模 105

田中康裕, 古田美佐夫, 斉藤 進, 山本博二:

赤外線放射温度計による火山地熱帯の観測 109

雑報

地震・火山および津波に関する気象庁職員著作目録 (1974年) 115

Vol. 40 Contents

No. 1

A. Masatsuka and Y. Arakawa: On the Potential Earthquake
Detectability and the Efficiency of the Matsushiro
Seismological Observatory as a Station of Near
Earthquakes 1

S. Wakui: Surface Waves and the Crustal Structure
in the Izu-Bonin Island Region 9

M. Yoshidame: A Statistical Study on the Volcanic Explosion
Earthquakes at Volcano Sakurajima 19

Nos. 2~3

N. Yamagishi: An Investigation of Microtremors at Matsushiro 33

M. Ichikawa: Simulation on Detection of Anomalous Region
of P Wave Velocity by JMA Seismological
Observation System and Some Related Problems 43

Fukuoka District Meteorological Observatory: Report on the Earthquake of Northeastern Part of Kumamoto Prefecture, January 22~23, 1975	55
Seismological Division, J. M. A., Sendai D. M. O., Akita L. M. O., and Morioka L. M. O.: Reports on Volcanic Activity of Volcano Akita-Komagatake after 1970—1971 Eruption	73
Fukuoka District Meteorological Observatory: Report on the Earthquake of Central Part of Oita Pref., April 21, 1975...	81
T. Nagamune and M. Chiurei: Earthquake and Tsunami Magnitudes, for the Earthquake Off E Coast of Hokkaido, June 10, 1975.....	105
Y. Tanaka, M. Furuta, S. Saito and H. Yamamoto: Temperature Measurement of the Ground Surface of Volcano by an Infrared Radiation Thermometer	105
List of Contributions from J. M. A. on Earthquakes, Volcanoes and Tsunamis, 1974	115

験震時報投稿規定および投稿の手引き

験震時報は全国気象官署の職員が行なった気象庁の地象業務に関連する分野の研究・調査を掲載し、原則として年4回刊行する。内容は論文・報文および雑報である。論文は新しい知見を含むもの。報文は論文と比較して調査・資料的傾向のあるもの。雑報には寄書・短報・速報・討論・著作目録・正誤表を含む。

原稿は投稿規定と投稿の手引きに従って作成する。不備な原稿、次の投稿規定に沿わぬ原稿は返却することがある。

1. 他誌に掲載したものをそのまま再投稿してはいけない。また、他誌に掲載したものの続編形式にはしない。
2. 原稿の本文は和文とする。和文は原稿用紙に読みやすく書く。アブストラクト等の英文はなるべくタイプライターを使う。
3. 表題は和文で書く。
4. 著者名は疎字とローマで略さずに書く。所属官署名は和文で書く。
5. 論文には英文アブストラクトを付ける。英文アブストラクトは別紙に書く。
6. 図はトレーシングペーパーに墨や製図用インクではっきりと描く。また、赤・黄等の紙や方眼紙、リコピーの用紙およびボールペン・サインペン等を使わない。
7. 図表の表題・説明は論文の場合原則として英文で、その他の場合和文で書く。図の表題・説明は別紙にまとめて書く。
8. 本文の末尾における参考文献は、原則として次の形式に従って列記する。

雑誌——著者名(年):表題, 雑誌名, 巻数, 号数(省略してもよい), ページ~ページ。

単行本——著者名(年):書名, 第何版, 発行所, 総ページ pp. 数, または引用ページ。

(例)

久野 久(1958):大島火山の地質と岩石, 火山, 第2集, 3, 大島特別号, 1~16.

Gutenberg, B. and C. F. Richter (1942): Earthquake Magnitude, Intensity, Energy and Acceleration, Bull. Seism. Soc. Amer., 32, 163~191.

竹内 均(1966):地球物理学(坪井忠二編), 第1報,

岩波書店, 67~71.

Jeffreys, H. (1959): The Earth, 4th ed., Cambridge Univ. Press, 108~113.

9. 著者には別刷50部を無料で送付する。

10. 原稿送付先は気象庁地震課

原稿を作成するときは、次の投稿の手引きの各項の趣旨に沿うこと。また、原稿提出前には以下の各項に沿って必ず原稿を点検する。

1. 本文

- 1.1 編集・印刷の便宜上400字詰の原稿用紙を使う。
- 1.2 図表用のスペースを本文にあけておかない。
- 1.3 数式は2行取りに書き、数式の文書・記号をはっきりと説明する。
- 1.4 誤まりやすい英字・ギリシヤ文字・ベクトル記号にはフリガナを付け、大文字・小文字の別を示す。添え字は判別出来るようはっきり書く。
- 1.5 暦年には原則として西暦を用いる。
- 1.9 人名の敬称は原則として省略する。

9. 表題・アブストラクト・はしがき

- 2.1 表題は具体的に内容をよく伝えるものであること。
- 2.2 英文の目的・仮定・方法・結論等を明確に書き、次の諸点と留意する。④表題をそのまま使って第1行を書き始めない。⑤図・表・式・文献の番号を引用しない。⑥第三者の立場で書き、IやWeを用いない。
- 2.3 はしがきには、本文の目的・方法・意義・他の研究との関連等を書く。

8. 図表

- 3.1 図表の数は最小限にとどめる。
- 3.2 図表のそう入箇所を本文の欄外に記入する。
- 3.3 図表中の文字・記号等をもれなく説明する。また、必要な単位は必ず付ける。
- 3.4 製版後、図の修正に不可能だから注意する。
- 3.5 原図の大きさは印刷時の2~3倍(線拡大率)くらいがよい。図に記入される英字・数字は印刷時の大きさが1mm、漢字の場合は1.5mm以下にならぬようにする。

昭和51年3月25日発行

編集兼発行人

気 象 庁

東京都千代田区大手町1丁目3番4号

印刷所

大東印刷工芸株式会社

東京都中央区月島4丁目6-3号